

# 海外研修報告ーオーストラリアの大学訪問ー

三重大学 工学部・工学研究科 技術部

○田村雅史, 梅田直明

tamu\_m@chem.mie-u.ac.jp

## 1. はじめに

平成 23 年 12 月学長裁量経費による海外派遣研修として、工学部・工学研究科技術部の 2 名がオーストラリアの大学を訪問し、そこにおける技術職員の役割や待遇を調査するとともに、大型機器の運用・管理の方法、安全衛生管理の取り組み、キャンパスの様子について調査した。その内容について報告する。

## 2. 訪問目的および調査項目

海外研修を行うに当たり「海外の大学を訪問し、そこにおける技術職員の役割や待遇を調査するとともに、現在担当している業務に関連する事柄（大型機器の運用・管理の方法、安全衛生管理の体制等）やキャンパスの様子について調査し、日本と異なる所や進んでいる面を取り入れ今後の取り組みに生かす」という目的を設定した。

## 3. 訪問大学

訪問することにしたオーストラリアの大学は、シドニー市内および周辺のマッコリー大学、シドニー大学、ニューサウスウェールズ大学で、その内、マッコリー大学とシドニー大学については面談する交渉が纏まった。ニューサウスウェールズ大学に関しては訪問対応ができないとのことでキャンパスの見学のみを行うこととした。（図 1：訪問大学の地図）



図 1 訪問大学の地図

## 4. 調査の詳細

研修は、現地で 4 日間、移動日である前後 1 日ずつを含め、計 6 日間の日程で行った。

### オーストラリアの様子

1 日目はシドニー市街の視察を行った。オーストラリアの景気は良くシドニー市街も活気があった。また市街の再開発やビルの工事も多い印象。

### オーストラリアの雇用事情

終身雇用ではなく契約制の雇用形態が多い。また、朝の混雑が回避できるフレックスタイム制が浸透している模様。また、失業保険などの手当ても厚く、転職する人も多い。

### マッコリー大学訪問

マッコリー大学では環境科学研究室のダミアン・ゴア准教授を訪ね、研究室の機器の説明を受け、その管理、運用方法などを聞き取り調査した。次に、電気工学科のマイケル・ヘイミリッチ教授と面談し、技術職員の役割と待遇、雇用・勤務形態、福利厚生、研修制度、教職員の評価について、安全衛生の取り組みなど様々な事柄について聞き取り調査を行った。最後に、大学内の研究所を見学し、大型機器等の説明を受けた。

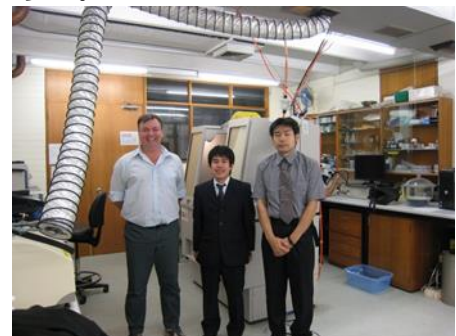


図 2 マッコリー大学訪問

## シドニー大学訪問

シドニー大学では、化学・生物分子工学科のティム・ラングリッシュ教授（学科長）と技術系職員のジェフリー氏と面談し、マッコーリー大学と同様、技術職員の役割と待遇、雇用・勤務形態、福利厚生、研修制度、教職員の評価、安全衛生の取り組みについて聞き取り調査を行った。特に安全衛生への取り組みに関しては非常に詳しく説明を受け、参考になるところが多かった。また、学科内や研究室の見学も行った。研究室ごとに安全管理用の研究許可書、MSDSなどが掲示、設置されており、安全設備も充実していた。

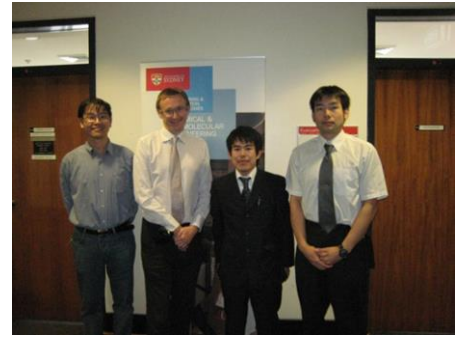


図3 シドニー大学訪問

## ニューサウスウェールズ大学、シドニー工科大学のキャンパス調査

ニューサウスウェールズ大学ではキャンパスを歩きその設備や案内板等の調査を行った。シドニー工科大学も滞在した所の近くにあり、そのキャンパスについても調査した。どこの大学でも大きく、分かりやすい案内板が多く設置され、訪問者にとって親切な設備となっていた。数カ所にヘルプポイント（インターホン通話による案内）も整備されていた。加えて、よく整備されたキャンパスとリラクゼーションスペースが大きくとられていることも印象に残った。

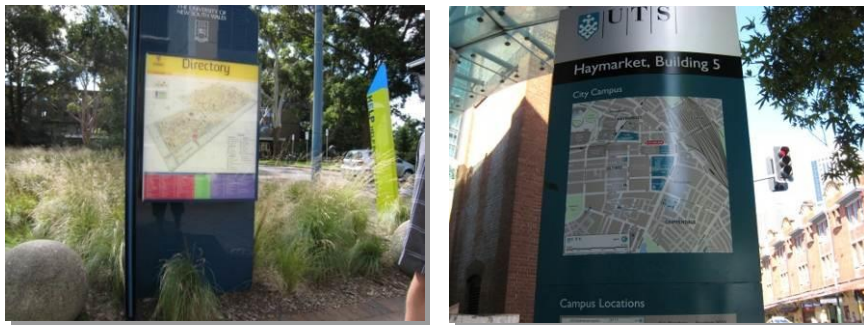


図4 大きな案内看板とヘルプポイント

## 5. おわりに

この調査によって、オーストラリアの技術職員の仕事の一端を知ることができ、その待遇や研修などの体制も分かった。聞き取り調査した多くの人が教員だったこともあり、技術職員の専門的な業務のより詳細な部分を知るには、少し物足りなく思うところもあったが、安全衛生管理の面での取り組みに関しては詳細に知ることができ、また、日本の大学以上に重要視していることが分かった。

大学の設備や整備状況に関しても、快適で、きれいな、人に優しい（構成員だけでなく、訪問者にも）キャンパス作りに腐心している様子が見て取れた。

また、個人的にはこの調査を通して非常に貴重な経験（特に、海外の大学の人と話をしたり、その設備を見学させてもらったり等）をさせてもらったと感じている。得られた経験を今後の取り組みに生かしたいと強く思う。

## 謝辞

この研修の機会を設けていただいた内田学長をはじめ大学本部の皆様、そして、海外出張に際して様々な調整をし、ご支援・ご協力くださいました、小林工学研究科長、中村技術長、工学部事務の方々に感謝いたします。